

奈良言友会会報

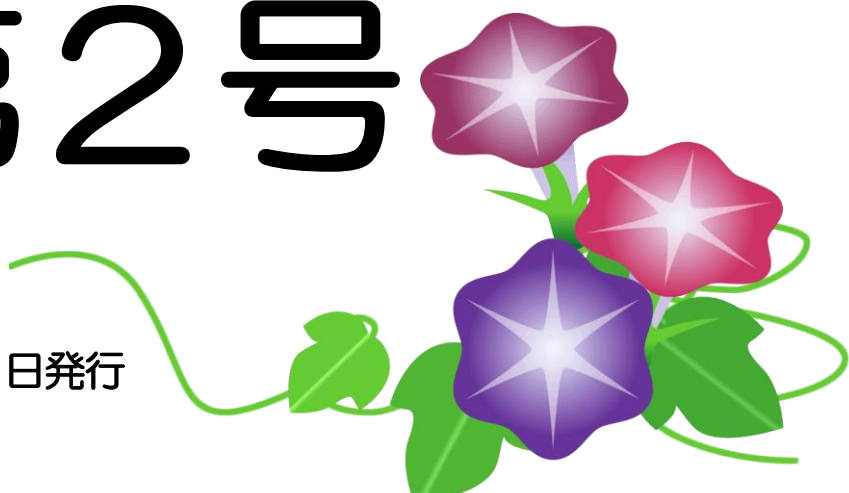
まほろば

絶景.com
http://makkei.com



第2号

平成24年8月1日発行



吃音人生失望から悟りへ

辰巳 正充

まず初めに今現在と私達の生きてきた時代がすっかり変わっているということです。わたしの学校じたいがクラスの人数が60人、小学校全体で2000人というマンモス学校であり、いじめなんてあたりまえ、そして先生にたたかれるということもあたりまえ。其れに対して親が口出しなんてとんでもない、子供会も子供が運営、今のように親が口出しするような親の会のような子供会ではなかった。又、私たちの時代は成績の結果は廊下に張り出されたものである。そして電車のキップも自動販売機なんてなく並んで買ったということ、そういうことを前提に考えて頂ければとお願い致します。

私の吃音は4歳、ほとんど言葉を覚えたころからだそうです。私としての記憶の中では、幼稚園の入学の面接の時、名前が言えず苦しんだこと。そして小学2年の時、先生がこの字読める人、その字は(火)でした。私は(はい)といって手を勢いよく挙げ「ヒッヒッヒッヒッヒー」とやっつてしまいました。教室中先生も大笑いになって、それからドモリ、ドモリとからかわれいじめもされました。尚3年生になって病気で90日ほど休み留年させようかと先生方の中で話があったようでした。しかし、何とか進学はできましたが、何分クラスいや学年でビリということはいじめの対象になり、好都合の獲物でした。悪いことに母が結核になり片肺の切除という大手術、その時に手を合わせ、神に仏に救いを求め祈り般若心経、西国三十三番を意味もわからず唱えたのが今も役に立っています。また皆貧しかったのです、弁当のないときもありクラスの半数は中学卒で高校にはいけなかったのです。

話はもとにもどりますが、小学4年奇跡が起きました——成績がビリから一番になっていたのです。先生もびっくりでした。こんな生徒ははじめてだと長い間お手紙も頂きました。そして3学期には級長になり、いじめもすっかり無くなり 私の話も聞いてくれるようになり、めでたしめでたしです。しかし其れからが吃音者にとって地獄でした。起立—礼—着席 其れが言えないのです。学級会では司会、6年では子供会の会長として実際に級長にはなりたくなかったのです。選挙のような投票で何時もそのときは 緊張ばかりでした。そして中学になっても全校生1500人の前での号令、進行役 卒業式での挨拶。親は喜んでくれましたが、私吃音者にとってこんなにつらく毎日学校に行くのがたまらなくいやでした。

そして高校には行かずある会社、其れは誰でもがご存じの経営の神様といわれている方、学費は全額その方からの支援の訓練学校です。3年間で堅幹部養成ということでリーダーになるための訓練です、その時は私の人生最悪でした。話が出来なくてはだめなのです、私には到底無理なことでした。その頃の映画に水上勉の五番町夕霧楼という映画、また三島由紀夫の金閣寺、吃音の為に人生をだめにしてゆくその姿が自分と重なるのです。

そこで考えました、話がだめなら実技でわたしは機械、電気関係が好きだったからです、すべてを実技にかけて正解でした、実技ではいつも上位にはいっていました。そうしてなんとか卒業して会社に。

リーダーとして、仕事も実戦には強く会社の大会でも2位3位と尚、国の検定試験においても1級第1号という資格も取れました。吃音をカバーするだけの強さを持てたのです。有難いことでした。中略

会社をやめて独立へそれから無我夢中でした。吃音のこともすっかり忘れるほどでした。考える時間がなかったのです。リーマンショックで廃業しましたがいろいろ経験できました。心の余裕ができた中、吃音矯正所に通い、また言友会にも入り吃音と向き合うことができました。これからもよろしく、お願い致します。

記憶のたからもの

松井 保典

小学校に入学して、初めての学芸会が開かれた時、僕はクラスから選ばれて役を与えられた。ところが練習の過程で役をはずされた結果、幕の後ろで姿を見せず歌を唄ったことを、今でもはっきり覚えている。相当にどもっていたのだろうか。両親のがっかりした姿をのちに祖母が語ってくれたが、父も何とか治そうと医者を訪ね歩いて努力したと、成人した僕に母が話してくれたことがあった。

僕自身小学校の3年頃から吃音を意識するようになったと思う。と同時に、いじめも受け始めた。「ども、ども」と女子生徒の前でからかわれてかなり傷ついていた。

先生からは何のアピールも受けずに、国語、社会の本読みと発表には、精神的な重圧から何とか逃れようと必死にもがいていたものだ。遅刻や早退を繰り返して、今考えて見ると、孤立した不自然な学校生活であったと思う。

中学生になると登校拒否をするようになり、家に閉じこもってひとり本を読んでいる日々が続いた。担当教師の自宅訪問もあり、その時は登校したが、それも長くは続かなかった。周囲の眼は冷たかったというより、無関心な空気だったから、一人だけ浮いた存在だったろうか。

社会人になって僕と言う人格はそのままに広い世界に移動していった。そして情け容赦のない現実が待っていた。大阪の製薬会社に縁故就職したが、数か月で配置転換。事務所から製薬部門に変わり、ほとんど会話のない、薬の粉末にまみれた日々だった。

勿論、吃音の重圧からは解放されたが、その後の二十数年の人生航路は四度の転職を繰り返して、全て配置転換で終わった。人と接触する職場から遠ざけられた当時の己自身を顧みると、当然だったと思えるし、人間的にも未成熟であった。

一口に吃音者といっても、その人間像は千差万別、生き方にも天地ほどの差があると思う。辛く苦しく生きていく気力を萎えさせ引き裂いていく魔力の存在が、自分の人生にのしかかって来て、その重みに耐えかねて不本意にねじ曲げて来たか、思い出だけでも気持ちが入ってくる。

僕は逆説的に吃音を宝物だと発言したが、人生の大半を吃音に引きずられながら生きてきて今、老いを感じ命のカウントダウンをするようになった自身を語る遺言は決して吃音をネガティブに語れない。

自己と向き合い過去を検証した時、忌まわしいものではなく、むしろ貴重な体験ではないのか。誰も体験できる人生の所産ではなく、言友会という土壌の中では心の財産と言えるのではないか。

セルフヘルプとは、子どもや少年達に心の財産を分かち与えるもの。決して驕らず、高ぶらず、自分の体験を謙虚に話してあげる。決して孤独にさせてはいけない。いつでもどこでも話し合える存在でありたい。それが吃音を背負って長年生きてきた己の存在理由でもあるのだと思う。

吃音は私の宝物である。



6月3日 例会報告

第1部 体験談「戦争と私」

担当：稲植 英和

<稲植さんの手記>

「稲植（いなうえ）候補生、厠（かわや。便所）へ行って参ります」と大きな声で申告し、班長の「よし」の許可があってはじめて厠へ行けるのです。私は吃音のせいで名前の頭の「い」が出ず、名前が言えないために、兵舎の外に出るたびに、「どうした」と追及され、皮のスリッパや竹刀で頬や頭を殴られる毎日でした。

私は、昭和20年、17才（旧制中学5年）の冬、学徒動員先から特別幹部候補生として航空通信学校に入学しました。学校といってもそこは軍隊そのものでした。毎日の厳しい訓練に生徒達は皆、涙一つ見せず頑張りました。

私は幼い時から吃音で人一倍の苦労がありました。今考えると「貴様」と呼ばれたときは「はい、稲植候補生です」と返事ができたのに、頭に「あ行の音」がくると、つまってしまう。現在も苦しみのひとつです。

兵舎の窓から、「お母さん吃音を治して」と、
毎夜お月さんを見ては泣いた、6か月でした。

稲植 英和

稲植さんは昭和2年生まれで現在85才。長らくJR奈良駅前の町内会長や保護司を務められ、現在、人権教育推進協議会の会長をされているなど、地域社会の福利に尽力されてきました。

まっすぐな姿勢で、一言一言ははっきりとメリハリのある話し方をされるので、大変聞きやすく、分かりやすく、私たちの手本にしたいものです。話し方で心がけていることは何ですかとお聞きすると「それはゆっくり話すことです」と言われます。しかし今でも「あ行」が頭に来ると出にくく、

「おはようございます」が出にくいと「ハイおはようございます」と言うなど工夫されているそうです。

軍隊でのつらい体験を話してくださいましたが、困難な状況を乗り越えてきた強さを稲植さんに感じます。

どんなことを若い人に伝えたいですか、と聞くと、「人間みな平等ということです」と言われました。今後も元気で活躍されますようお願いしています。 報告 堀 茂

第2部 ロールプレーイング・電話大作戦

担当 堀 茂

吃音のある人には電話が苦手という人が多いですが、それは、話す相手が目の前にいないことと関係があるように思います。相手はもしかしたら、夫婦げんかの最中かもしれないし、好きなテレビを見ているところかも知れない、職場で上役に叱られたところかも知れない。また面と向かって話をしている場合には、相手の表情を見れば、こちらの言ったことをどう受け取ったかがある程度分かるけれども、電話ではそれが分からない。これらの状況は、不安でどもりやすい状況と言えるのではないのでしょうか。

今回は実際の電話機2台を部屋の中央に置いて、その間に衝立を立てて相手に見えないようにして行いました。次の2つの会話場面を設定して、電話する人になったつもりで取り組みました。始めは筋書き通りにしますが、途中からそれぞれ自由に会話を進めます。

- (1) 講習会に参加したAさんは、戻ってから、そこでもらった資料を会場に置き忘れたことに気づいて、会場に電話するが、係員から資料の置き忘れはなかったことを告げられる。そして・・・
- (2) 厨房の職員が食品会社に食材をファックスで発注したが、指定の時間が過ぎても品物が届かないので、電話をするとその会社の係員はそのようなファックスは受け取っていないと言う。そして・・・

ペアになって順にやってみました。それぞれ場面の状況をイメージして、そのひとになったつもりで取り組みました。応答の仕方や話の進め方をそれぞれ作りながら、積極的に、それほど緊張することなくできたと思います。あとで感想を聞きましたが、面白かった、実際の場面に役立ちそうだ、などの感想が聞かれました。

プレイイングの後、実際の電話するときなどに気を付けることなどを話し合いました。相手が見えないので、「今、お話してよろしいですか」と相手の都合を聞くこと、目の前に相手がいるときより、ていねいな話し方を心がけること、ややこしい話は、電話でしないで、遠くても相手に会って話すようにする、言葉がでにくいときは、相手から見えない分、却っていろんな工夫ができるのではないかと、など話し合いました。

7月1日 例会報告

15名参加

第1部 統計的吃音考察

担当 山崎 貴浩

吃音者は、男女別では、男性は女性の約5倍の数であるといわれています。この他にも吃音者特有の数値があるかも知れません。参加者の皆さんの経緯を基に探ってみました。

- ・血液型
- ・生れ月

- いつから吃音になったか。
(自分が思っている) 吃音の原因
- 2親等以内に吃音者いるか
- どもりやすい言葉は何行か? どんな場面か? 等々です。

第2部 討論会

担当 青木明大

テーマ プレゼンテーション

「プレゼンテーション」と聞くと吃音がなくても、逃げ出したくなる人は多いのではないのでしょうか。自分の考えを伝えるという能力はますます重視されるようになってきています。それは吃音者として例外ではありません。

7月の例会ではテーマは自由で、参加者に7分又は3分程度プレゼンテーション又はスピーチをしてもらいました。(担当者のみ、ことばの親子キャンプの講演練習として15分話しました。)言友会の友人の話や職場での発表の話など様々な話題で各自がプレゼンを行いました。ある発表者が「仕事では何か一つ誰にも負けないものを作る」と発表していたのが印象的でした。吃音者は言葉に捕われがちです。しかし、発表者の中には楽器を使った発表などもあり、言葉に捕われ過ぎてはいけなしいと思います。また、各人がどのような人なのかを知る良い機会にもなったのではないのでしょうか。

感想

- M. Y 一味、欲しかった。個人の意見やコメントだけでなく、全体の参加で一つのテーマについての意見交換、グループ毎のテーマを設定して議論するとか、やはり、全員が平等に話し合えることが、大切だと実感した。
- I. Y 前半では、それぞれの吃音のタイプの違いをよく知ることができました。後半のプレゼンでは、緊張しながらも最後まで話をされて良い経験になったと思います。人前で話すのが苦手な方が多いと思いますので、この機会をもっと増やしてほしいです。
- I. H 言にくい言葉が共通するものがあつたのでためになった。人それぞれ違う点もあり、面白いと思った。
- S. T 吃音の状態は様々であることが分かった。生れ月と吃音に相関関係があるように思う。
趣味や考えを披露していただき、参加者を身近に感じることができた。
- A. A 初めて例会を担当させていただきました。自分のやりたいことができたことは良かったと思います。自己紹介だけでは、どういう方であるか分からないのですが、皆さんの話が聞けて、どのような方であるかが分かり良かったです。
- M. K 久しぶりに例会に参加させていただきました。例会に参加することで、よくも悪くも吃音をより意識してしまいましたが、その意識を今後の自分の行動や対処の仕方に活かしていけたら良いと思いました。他にもっと吃音で悩んでいる人が多いと思いますが、より多くの方に参加していただければと思いました。
- Y. T 吃音者の状況が分かってよかった。プレゼンはテーマを一つ決め、それについて全員でやるのもいいかと思う。
- S. S 会長さんのバイオリン良かったです。また今度、ユーモレスク等のクラシックを聞かせてください。
- N. Y 人前でお話する時は、もっと稽古しておくべきでした。反省しきりです。
- M. M 前半は分かりやすい例会でした。
- A. I 「統計的に吃音を考える」ということはとても興味深く参考になりました。大人の吃音のある方がたのことを知るといことは、子どもの成長の見通しができるということです。また、発表に向けてということで、ご自身の経験を話してくださったことも、子どもたちに近い年齢のことでとても参考になりました。皆さんに教えていただい

たことを子どもたちに反していけるよう頑張りたいと思います。ありがとうございました。

S. K 途中からの参加でしたが、プレゼンテーションの企画楽しかったです。自分で考えてそれをみなさんにプレゼンする。次回はちゃんと参加したいです。

H. S 前半「吃音統計」は興味ある内容でした。話を聞いていて、一人ひとり随分違うなということです。吃音のことを話すとき、どうしても自分の体験を基に話すことになりがちですが、一人ひとり違うということを考えながら話さないといけないと思いました。プレゼンテーション。あのような場所で弾くのは初めてで緊張し、ドキドキしました。話しながら音を出したり、板書したりしたことで、話がしやすくなったと思います。

私と吃音の歴史

市田 浩志

私の吃音は幼稚園の頃に出だしたと思われます。その当時、矯正施設の様な所へ数回通った記憶がおぼろげながらあります。その後、小学1～4年の時も、出ていた様ですが、自分ではあまり意識せず、どちらかと言うとおしゃべりだったと思います。通知簿にも落ち着きがないとの評価もあり、また毎日、野球やサッカーで外で活発に遊んでいました。小5になると学習塾に通い始めました。それとともに、外で遊んだりする機会が減ってきました。その頃位から、自然と吃音があまり出なくなりました。

ただ、注目される場面では、依然、吃音を意識させられました。まず、新学期の4月の自己紹介の時が苦痛でした。名前が出にくいので、自分の名前の前に名前とは前置きの言葉を付け足していました。また、中学の時、剣道部に入っており、顧問がいる体育教官室に入る時の、失礼しますが出にくかったです。それ以外でも日常会話で出にくい時は、ありましたが言い換えでしのいでおり、それほど苦になりませんでした。大学に入ると、陸上ホッケー部に入りましたが、下級生は持ち回りで、みんなの前で準備体操の号令をかけます。それが、嫌な事も有り数カ月で辞めました。

社会人になって電話が最初の難関でした。敷島紡績という会社で最初のシが出てきません。会社のトイレで何回もシキシマと繰り返しました。その後、転職しました。吃音が原因では無く、社会人としての考えが甘く、内向的な性格から、周りに溶け込めなかったからです。再度、吃音を意識したのは5年前、ちょうど30歳位の時からで、会社でのストレスから自分に自信がない状態でした。日常の業務連絡時にもどもり、自分の言いたい事が言えなく毎日悩んでました。そこで、大阪言友会に2年程行きました。結局、吃音のとらわれから抜け出せず、自分を責める日が続いていました。最近になり会社から退職勧奨がありました。転職活動では、現在の事務職から、製造や配送の職種で探しました。しかし、今までの経験が無いのでなかなか採用されず、結局、営業事務での採用が決まりました。それと、第一志望の病院の総務事務職の面接はまだ後

日にあります。いずれにしても次の会社には9月位から行く事になります。

振り返ってみると、やはり、本業がうまくいかない時には吃音を意識してしまいます。今後はどうりながらでも、今まで欠けていた自分の意見をどんどん言っていくようにしたいです。あと、ストレスをためないように、例会で、皆さんに相談し、アドバイスをいただきながら乗り切っていければと思います。おそらく仕事で自信ができれば、吃音も気にならなくなるはずで

奈良言友会 これからの活動予定

日付	前半	後半
8/4(土)	(仮称) ことばの親子交流会 13:00~19:00 生駒市立生駒山麓公園	
8/5(日)	狂言にどもりなし	地域活動の中での取組み
13:30~ 16:00	前半は、中世に生まれ育った楽しいお芝居、「狂言」についてお話しします。後半は、狂言の発声や息づかいを用いながら、せりふの稽古をします。きっとどもることなく言えるはずで 担当：西村 泰宏	長らく吃音で悩んできた発題者ですが、近年は地域の自治会活動に積極的に参加する中でカミングアウトなどの体験から多くの「気づき」や教訓を得ました。それを基に話し合い、役立てたいと思います。担当：辰巳 正充
9/2(日)	就職と吃音。改善の取組み	話し方の改善
13:30~ 16:00	職場での電話がうまくできず、退職の経緯がある発題者の 就職活動 障がい者手帳取得への取組み、さらに吃音改善の試みを語ってもらい、それをもとに問題解決に向かうよう話します。 担当：池島 靖人	ゆっくり、ゆったりした発声、発語練習をしたあと、その話し方で、自己紹介、3分間スピーチなどを行います。 担当：三嶋 学

※ 例会の場所は、奈良市ボランティアインフォメーションセンター（JR奈良駅西側歩2分）です。

全国の言友会のイベント等

吃音ワークショップ全国大会 in 京都

日時： 11月23日（金・祝）～25日（日）（全国言友会連絡協議会・京都言友会）
場所： コミュニティ嵯峨野
講演： 姜 尚中（カサヅユ）氏（東京大学大学院情報学環教授）の講演
内容： 出会いの広場 分科会 パネルディスカッション 演劇公演 余興 等

奈良言友会 連絡先

堀 茂 〒636-0915 生駒郡平群町春日丘2-13-15

Tel/Fax0745-45-2857 090-9610-6393 Email: sigeru1030@yahoo.co.jp

奈良言友会HP <http://ameblo.jp/nara-gen-yukai/>

奈良言友会会報誌「まほろば」 編集発行 山崎 貴浩